

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2571300116		
法人名	医療法人 翔英会		
事業所名	グループホーム サンドラー		
所在地	滋賀県野洲市北野一丁目16番15号		
自己評価作成日	平成23年10月20日	評価結果市町村受理日	平成23年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家事、食事、入浴などの日常生活をできるだけ自分自身で行っていたり、生活能力を維持・向上させ毎日を楽しく、穏やかに過ごしていただけるようにサポートいたします。季節ごとのレクレーションを行い四季を感じてもらい生活の活性化を図っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2571300116&SCD=320&PC
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432 株式会社平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成23年11月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、医療法人を母体とした3階建ビルにあり、併設のデイサービスが1階にあり2階と3階を2ユニットのグループホームが占めている。代表者である母体の院長による週2回の往診や職員とのふれあいから生まれる信頼関係がグループホーム全体に行き渡り、安心感を伴った穏やかな雰囲気である。内部の生活空間はそれぞれゆったりとしたスペースで清潔に保たれている。職員は、本人が出来ることは本人にやらせてもらうことへの実践に積極的に取り組み、利用者は一人ひとりの個性を尊重して貰う結果、いきいきと生活している。昼食時、利用者とは話し合った際、1人の利用者の「ここは天国や」といった言葉が事業所を象徴している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や目につくところに、理念を掲げ、管理者と職員は、その理念を共有し、実践につなげるよう努めている。	理念は「こころのふれあいを大切に、家族と共に支え合うケアを行います」「自分らしくいきる」と謳い、玄関、居間、事務所の出入口にも掲示し、全職員は理念に沿って活動し徹底したケアに努めている、	地域密着型サービスをふまえた理念となるよう、改訂に向け取り組んで欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者との散歩、外出の際には地域の方と挨拶をかわし交流を図っている。地域の祭りにも参加し交流しているが、なかなか地域側に受け入れてもらえないことがある。	自治会に加入し、利用者・職員共に地域の祭りや県下一斉清掃に参加し、事業所のイベントに地域住民を招待したりしている。少しずつ交流密度を高め関係強化に向け努力している。	隔月に発行する事業所新聞を活用して地域との繋がりのある欄を設け、認知症ケアの広報や相談窓口を設け、地域貢献に努めるなどしてホームの存在を地域にアピールして欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会への参加や、県下一斉清掃への参加を通じて、理解や、支援の方法を、地域の人々に向けて活かそうと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を二ヶ月に一度開催しているが、地域からの出席は今までにないため今後の課題である。	市担当、地域包括職員、家族代表、ホーム職員で構成され、2か月に1度開催している。特に地域交流の重要性が毎回討議され、構成メンバーは大きな課題として取り組んでいる。	運営推進会議メンバーには、外部評価結果の目標達成計画のモニター役を担ってもらう運営を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から連絡を取り、運営推進会議でも助言を頂きサービスに取り組んでいる。今後は地域の敬老会などにも参加できるようお願いをしていく。	介護保険課には各種報告を行うとともに、運営に関する問題点について相談し助言を得ており、介護相談員も受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員一人一人が正しく認識し、身体拘束のないケアを実践するよう伝達している。	身体拘束については少なくとも年1回の社内研修を行い、職員間で認識を共有している。昨年度課題としたオートロックの昼間開錠は、開錠し問題解消に努めたが、結局施錠するに至った。	問題の根源に遡って昼間のオートロック開錠に向けて、再検討を望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、見過ごされることのないよう注意を払っているが学ぶ機会はまだ持たれていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度理解を深める話し合いをする機会が持ててないので設定していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の凍結、解約時、書面にて十分な説明を行ない、理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や、家族の来訪時、意見要望を聞き、速やかに対応できるよう努めている。	意見や要望は、職員全員が把握に努めている。家族が話しやすい雰囲気作りをすすめ、利用者、家族から忌憚のない意見や要望が出され、速やかに対応している。苦情受付窓口は重要事項説明書に明記している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて、運営に関する意見や、提案を聞く機会を設けている。	代表者は週2回の回診時に、管理者は週1回のケア会議で職員の意見を聞いている。職員の希望する外部研修参加を積極的にバックアップしたり、室内装飾品の配置などで職員の意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人に勤務状況等について話し合いの機会を設け、向上心を持って働けるよう環境整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修を開いたり、法人外で研修を受けた職員は他の職員に研修報告をして働きながらトレーニングに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流会や研修会などに参加しているがネットワークにはなっていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期に情報収集を行ない、要望などに耳を傾け、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に本人と家族の話に耳を傾け、納得して頂けるまで話し合い、信頼される関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前によく話し合い、その時、まず必要な支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を共に行ったり、暮らしを共にし、信頼関係を築こうとしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族間の関係を理解して、面会時、連絡を取った際に本人の状態を報告し、家族と一緒に考えていくことで共に本人を支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が、いつでも自由に、馴染みの人との集まりに出かけたり、来てもらったりできるよう、支援に努めている。	毎月平均10名の利用者が夫々の家族と共に馴染みのレストランやお寺・友人宅などを訪問している。季節毎に6～7名の利用者が希望ヶ丘や美術館にも出掛け、中には馴染みの喫茶店での談笑も楽しむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が間に入ることで、関わりあい、支え合えられるよう、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も状況に応じて、アドバイスや相談に乗るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声掛けをして、一人一人の希望や意向を把握し、自らが選べるよう、支援している。	全職員が理念に基づいた「自分らしく生きる」をモットーとし、似顔絵フェイスシートや日常会話から思いや意向の把握に努めている。意思表示困難な利用者には、日常の表情や仕草を記録しケアに役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や、馴染みの暮らし方、生活環境を本人や家族からお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声かけや、一人一人の暮らしの現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやケアカンファレンスを行い、本人や家族、職員が、意見を交換し適切な介護計画を作成出来るよう努めている。	介護計画の個人ファイルはセンター方式に準じ、サービス担当者会議で個々の課題を検討し、結論等綿密に記載している。介護計画は本人、家族、医師からの情報を得て3か月毎に見直しを行い家族の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に記録し、情報を共有し意見交換しながら、実践や、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時に対応して既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスを提供できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員や、地域のボランティアの方の歌や大正琴を楽しんでもらったり、消防署と連携し、避難訓練を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医に受診している。緊急時には協力医院が確保されている。	かかりつけ医の継続受診は往診も含め、そのまま支援している。家族に不都合がある場合は事業所が同行しており、結果や医療情報は都度、家族に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に二回院長が回診し、職員が、利用者の情報や気づきを報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係や家族との情報交換や相談に努め、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にも説明しているが、入所後も本人や家族と常に話し合い、かかりつけ医と連携しながら事業所で出来る範囲の支援に取り組んでいる。	可能な限り理事長が入所時に、重度化や終末期についての事業所の方針を説明し、常にかかりつけ医と連携を保ち、事業所で出来る範囲の支援に努めているとの説明を受けた。文書化はされていない。	重度化・終末期のあり方について事業所としての方針を文書化して話し合い、その後も話し合いの都度確認文書を残し、方針の共有を図って欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	申し送りを定期的に行い理解に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行ない、避難できる方法を確認し、実践力を身につけている。本年度より火災時に応援していただけるようセコムと提携している。	年2回の訓練を実施し、内1回は消防署の立会で夜間想定避難訓練を行った。消火器、自動火災報知機、誘導灯などの消防設備点検を行い報告書を消防署に提出した。地域の協力体制は、努力するも実現していない。	避難訓練実施の際に地域の協力が得られるよう、運営推進会議のメンバーの協力を得て、協力体制実現に取り組んで欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りや人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう利用者一人一人にあった支援をしている。	利用者には敬語を使い、誇りやプライバシーを損ねることのないよう心掛けている。個人情報保護については契約書に明記し、事業所内の研修を行い遵守に努めている。個人ファイルはキャビネットに施錠保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を傾聴し、自己決定出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を優先し一人一人のペースを大切に出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれや身だしなみが楽しみになるよう本人の意向で決めてもらうよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを活かしたメニュー作りに努め、食事準備や後片付けも職員と共に楽しんで頂けるよう支援している。	職員が調理し、利用者は準備、盛り付け、後片付けに参加している。メニューは利用者の希望を取り入れ、職員も一緒に食事を楽しんでいる。食事も自立を目標にしており現在18名のうち16名が自分で食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みを活かし、バランスのとれた食事やおやつ、水分を確保できるよう支援している。また、利用者一人一人の体調、栄養状態をみて食事量や水分量を加減している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、おやつ後に一人一人の口腔ケアの見守り、介助を行い口腔内の清潔保持が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りオムツの使用を減らし、排泄記録表にて一人一人の排泄パターン、習慣を把握し、トイレ誘導を行い自立にむけた支援を行っている。	自立に向けての排泄支援を目標に、利用者一人ひとりのきめ細かな排泄記録を職員が共有し、トイレ誘導に努めている。その結果おむつ外しに繋がった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に、飲食物の工夫や運動への働きかけに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、夜間は行っていないが、午後からの入浴時には一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	月曜日～土曜日まで週5日入浴可能とし、1人につき週平均3回、1日に平均10名が入浴を楽しんでいる。入浴を嫌がる利用者には、夫々に工夫して誘導し、結果的に満足してもらっている。清拭も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日ベッドメイキングを行い夜間に気持ちよく眠れるよう努めている。日中も自由に自室で休息出来るよう支援している。	1	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人が薬の内容を把握し、服薬管理、服薬確認を行っている。また、家族やかかりつけ医との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に合わせてできる範囲で家事などを一緒に行い、それぞれが役割を持ち張り合いを感じてもらえるよう支援している。また、レクリエーションや体操を行い気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者は家族と自由に外出でき、天気の良い日は散歩に出かけたり、花見や外食、ドライブなどに出かけている。	天気の良い日は、1/3程度の利用者が職員と一緒に近くの公園の散歩に出掛けている。家族の来訪も多く、利用者の2~3割は、家族と一緒に買物や食事に出掛けている。10月には7名が美術館を訪れ喫茶店の談笑を楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族から預かり事務所で管理しているが、本人や家族からの希望があれば一緒に買い物に出かけられるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者がいつでも電話をかけたり、手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔を保ち、職員と利用者が共に片付けをしたり、花を生けたりし心地良く過ごせるよう工夫している。	食堂、居間は一体で広く和室も設けており、空調などの設備も整っている。居間の一角には入居者全員が座れるソファとテレビを置き、職員との会話やゲームを楽しんでいる。トイレ、風呂、食堂などは清潔に保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者相互で部屋に行き来したり、共用空間にもそれぞれの居場所を確保するなどし、自由に過ごしてもらえるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や道具、思い出の品などを持ち込んで居心地良く過ごしてもらえるようにしている。	個室はベッドと物入れが備えられた洋室で、それぞれ使い慣れた枕や布団、テレビ、小筆筒などを持ち込んでいる。整理整頓も行き届いて居心地の良い空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は安全でトイレや風呂場など分かり易いように工夫している。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流を図ろうと試みているが、なかなか地域側に受け入れてもらえない。	地域の行事に参加させてもらい、また、事業所の行事にも参加してもらえるよう働きかけ地域交流を図る。	地域の行事に参加させてもらう。事業所の行事にも参加してもらえるよう働きかける。	12ヶ月
2	4	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催しているが、地域からの出席がない。	運営推進会議に地域からも出席して頂けるよう勤める。	地域との交流を図り、地域に受け入れてもらえるよう働きかける。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。